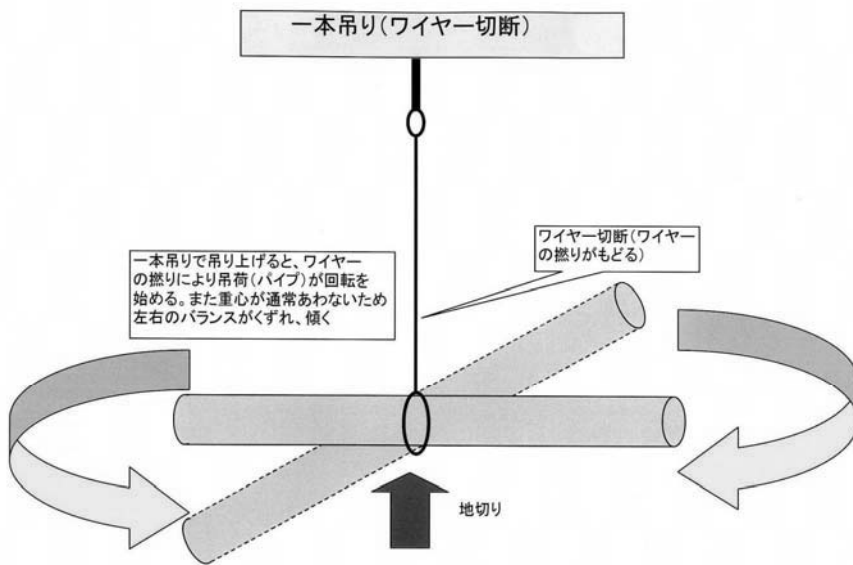


3-3 一本吊り（ワイヤ切断）【 2/2 】

項目	内容と方法
体感前説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ワイヤの説明(撚りなど) ・一本吊りは原則禁止の理由を受講者に聞く
実体感手順	<p>①吊り荷を吊る (クレーンフックセンター合わせ、地切り寸前で吊り荷の安定確認、手鉤使用) → クレーン運転手退避(荷が回転する恐れ)</p> <p>②吊り荷を吊り上げる(床上100mm 程度) → クレーンフックまたは吊り荷が回転 → ワイヤの撚りが戻り切断(切断しないこともある)</p> <p>③(ワイヤが切断しない場合)ゆっくりと吊り荷を下ろす (途中でワイヤが切断する恐れがあるので、吊り荷に絶対近付かない)</p> <p>④玉外しし、ワイヤを受講者に見せる(切断、素線切れ、あるいは撚りが戻っている様子) (素線切りしている場合、素線が刺さる可能性があり、受講者にワイヤを直接接触させない)</p>
体感後説明	<ul style="list-style-type: none"> ・安易に一本吊りしない (手近にワイヤが一本しかないから等の理由で一本吊りしてはならない) ・退避の徹底(吊り上げられた物は落ちると思え) ・玉掛けでは手鉤を使う
強調点	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールには、それぞれ決められた理由がある → ルールが決められた理由も理解して確実にルールを守って仕事をするのが重要



4. 高所作業における危険体感

4-1 安全帯のぶら下がり体感

項目	ポイント
体感の目的	1)安全帯の正しい使用方法 2)安全帯の日々の点検の重要性
要員	計2名(講師、講師補佐)
標準時間	10分
準備機材	・ 安全帯(受講者人数分又は数本)
会場準備	・ 鉄棒
安全に体感するためのポイント	・ 安全帯を掛ける鉄棒の安全確認 ・ ぶら下がり時に体が回転しないように、安全帯吊り部が背中中央部にくるように着用する。
体感前説明	・ 安全帯の正しい使用方法 (安全帯の着用位置、締め方等)
実体感手順	① 安全帯の着用 ② 安全帯のフックを鉄棒に掛け、ぶら下がる。 ③ ぶら下がらない他の研修者に安全帯ロープを握らせ、ロープが伸びる状態を確認させる。
体感後説明	・ 墜落した場合には、ぶら下がり以上の荷重が掛かる。 ・ 墜落時の衝撃を少なくするために、安全帯フックは腰より上の位置に取り付ける。 ・ 墜落時の衝撃による背骨への負担を軽減させるために、D環あるいは巻取り器の位置を身体の横、あるいは斜め後ろにくるように装着する。
強調点	・ 高さが2M以上で墜落の危険性のある場所では必ず使用する。 ・ 安全帯は作業前に点検し、丈夫な箇所確実に取り付ける。

【ぶら下がり体感教育の様子】



【ぶら下がり体感のイメージ】

